協議２－１

パーククラブへの入会方法について（案）

パーククラブへ

正式入会

養成講座

現状

入会

（会費）

（２回／年）

活動したい人

・最近は、パークレンジャー養成講座の応募者数が10人前後でとどまっている

・イベント参加者から、「もっと簡単に、パーククラブ活動に参加したい。」との声あり

※パーククラブ入会希望時の問合わせに対して、次年度の養成講座まで待ってもらうことがある

活動したい人

今後

入会

（会費）

パーククラブへ

正式入会

養成

講座

養成

講座

短期

講座

（１日程度）

（２回／年）

２回／年の定期募集はこれまでどおり

入会

（会費）

活動

参加

（必須単位４／６コマのみ）

・短期講座を受講することで、パーククラブの活動に参加できる仕組みを設置する。

・短期講座では、公園の理念に関する講義（ビデオ）と安全管理（実習）を1日で実施する。

○短期講座受講生について

・短期講座を受講した方は、パーククラブの通常活動に参加していただく。

・次回の養成講座を受講し、パークレンジャーになって活動していただく。

○入会費：1,000円（ボランティア保険加入料込）

○受付方法：パークセンター及びホームページで随時募集

１．登録用紙に氏名、住所、連絡先（メール必須）、得意分野、参加したい活動を記入し、提出

２．ホームページからメールにて

○参加のメリット

・短期間で、パークレンジャーの活動に参加することができる。

協議２－２

パークフレンドについて（案）

背景

現状

パーククラブの構成（Ｈ2１コンセプトブックより）

不在。

将来的にパーククラブを自立した組織として率いる人材を想定。今後、見出していく必要あり。

活動を企画する人

活動を実施する人

活動を支援する人

レンジャー

サポーター

マネージャー

現在のパーククラブ会員全て。

養成講座の継続と入会方法の追加により、今後も継続して仲間を増やしていく。

不在。

「活動に参加出来なくても公園づくりを応援したい人の受け皿づくり」が必要

本資料の検討事項

パーククラブを支援する方法として、パークフレンドを設置

○パークフレンドとは

・パーククラブの公園づくり（活動）を会費、寄附金（協賛金）などで間接的に支援する仕組み

○方法

・金銭の受入れ先、方法については、各種メリット、デメリットを含め現在検討中。

サポート受入れ方法の比較

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 年会員制度 | 寄附制度 |
| 対象 | どちらかというと個人 | 個人、企業、法人、団体等 |
| 受入方法 | 年会費  [例]東京パークフレンド（東京公園協会友の会）  年会費：2,000円 | 寄附金（協賛金）  [例]太閤なにわの夢基金（大阪市）  寄附金：1万円以上 |
| 徴収方法 | 年1回　現金徴集 | 随時　納付書により振込 |
| メリット | メルマガ等情報提供  指定イベントの優先参加　など | （左記に加えて）　税制上の優遇措置の可能性  感謝状の贈呈（一定額以上）  寄附者名簿公開　など |
| 金銭の受領者 | パーククラブ | 大阪府 |
| 制度の特徴 | * 友の会的な印象があるので会員に対するメリットが重要 * パーククラブが受領者の場合、パーククラブの裁量で会費を活用できる。 * この場合会計処理を厳格にする必要がある。 | * + 書類による手続必要   + お得感のような見返りをあまり必要としない。   （名誉的なもの）   * + 泉佐野丘陵緑地に還元できる制度の構築が必要。 |